

事務事業名 井戸谷下内野線道路改良事業

政策:01 暮らしを支える快適なまちづくり

施策:01 道路網の整備・充実

基本事業:01 幹線道路の整備と維持管理

部名:都市建設部

課名:土木課

計画年度	平成16年度	～	平成24年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計				
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）				2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）							
市民、市道井戸谷下内野線				道路の拡幅と歩道や側溝の設置により道路機能を充実することで、利用者の安全と利便性の向上を図る。 道路の概要（現状） 山武市森（出光山武の里跡地）～山武市雨坪（県道日向停車場極楽寺線） 総延長 1,363m 幅員2.5メートル 平成21年度 道路改良工事 L=87m L型擁壁 77.2m U型側溝 87.0m 工事費 7,722,750円							
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）											
道路利用者の安全性を確保し、利便性を向上させる。											
4 活動指標・成果指標・事業費の推移											
区分	指標名称			単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値			
活動指標	年度当たりの市道井戸谷下内野線道路改良延長			m	0	0	400	-			
活動指標											
成果指標	市道井戸谷下内野線道路改良済延長			m	0	0	400	1,010			
成果指標											
事業費				千円	9,487	7,723	0				
うち一般財源				千円	9,487	7,723	0				
5 目的妥当性											
○ 法定受託事業である（根拠法令→） ● 妥当である ○ 妥当性が低い				市道を整備し利用者の安全や利便性を高めることは、道路管理者の責務であり、市の事業として実施することは妥当である。							
6 上位の基本事業への貢献度											
● 貢献度大きい（理由→） ○ 貢献度ふつう（理由→） ○ 貢献度小さい（理由→） ○ 基礎的事務事業				幹線道路を改良することは、道路の安全性や利便性を高めることとなるため、基本事業への貢献度は大きい。							
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討											
○ 対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる ● 対象や意図の見直しはできない ○ その他				本事業は幹線道路の安全性・利便性の向上を図るための事業であり、対象や意図を見直すことはできない。							
8 有効性（成果状況）											
○ あがっている ● どちらかといえばあがっている ○ あがっていない				成果指標があがっていないのは、完成型の整備を行っていないためで、事業全体の成果はあがっている。 平成22年度からは、雨坪地先と併せ森地先についても、事業を実施していくことで、成果向上の余地は大きい。							
9 有効性（成果向上余地）											
● 成果向上余地・大 ○ 成果向上余地・中 ○ 成果向上余地・小・無し											
10 事業の再編成											
○ 類似の事業があり、再編成できる ○ 類似の事業はあるが、再編成できない ● 類似の事業はない				近接路線に類似事業はない。							
11 効率性（コスト削減の方法）											
○ ある ● ない				現場条件に合わせ最大限に成果が得られる施工方法を検討し、コストの縮減に努めて実施しているため、コスト削減余地はない。							